

名誉会員・会長表彰

【名誉会員】能 登 繁 幸

(建設／総合技術監理部門)



1. 略歴

技術士登録 (H9)
日本技術士会入会 (H10)
北海道技術士センター青年技術士協議会会長 (H1 ～ H2)
北海道技術士センター防災研究会会長 (H7 ～ H8)
北海道技術士センター副会長 (H9 ～ H18)
北海道支部幹事 (H11 ～ H18)
北海道支部副支部長* (H19 ～ H24)
統括本部理事 (H21 ～ H24)
北海道本部長 (H25 ～ H28)
北海道本部特別顧問 (現在)
※H23 より北海道本部へ名称を変更

2. 名誉会員に推挙されて

このたび、日本技術士会の名誉会員に推挙いただきました。関係各位に厚く御礼申し上げます。振り返れば、「たまたま」の連続でここまで来た、という感じです。昭和 57 年、某氏が技術士受験申込用紙を机の上にポンと置いていきました。せっかくなので受験しました。会場は道庁赤煉瓦の 2 階。当時研究所の室長でしたので、不合格は許されないぞ、と言う知人らに脅かされ、書いて消してまた考えるというハードな体験にくたくたになりました。合格後は急に知人、友人が増えて、いろいろな会合に引き出され、知らない間に青年技術士協議会初代会長、平成 7 年の阪神・淡路大震災をきっかけに結成された防災研究会の初代会長に祭り上げられ、立場上日本技術士会に入会。たちまち北海道支部幹事、副支部長、統括本部の理事、ついには北海道本部長に立候補(させられた)となり、技術士全国大会の実行委員長という名誉も頂きました。試験に合格した頃(40 年ほど前)、技術士会の活動は比較のお年を召した方々が中心でした。それが次第に若手の参加を得て、今では若手技術士が活動の中心の感です。誠に結構なことだと思います。人類の未来には多くの課題が山積みで、我々技術士が行うべきことは無数にあります。若い皆様の今後の活躍を期待致します。

**1. 略歴**

技術士登録 (H15)

日本技術士会入会 (H15)

北海道支部 オホーツク技術士会幹事 (H16 ～ H22)

北海道支部 オホーツク技術士委員会幹事 (H23 ～ H26)

北海道本部 オホーツク技術士委員会代表幹事 (H27 ～ 現在)

北海道本部 副本部長 (H21 ～ H22)

2. 会長表彰を受賞して

オホーツク地域の技術力向上のため、もっと技術士を増やそう、広く技術士を知ってもらおうとの事から平成 15 年 2 月にオホーツク技術士委員会前代表幹事であった大島技術士(元北見工業大学理事副学長)を中心にオホーツク技術士会(現オホーツク技術士委員会)が設立されました。その時私は口頭試験を終え合否の結果を待つ身でしたが、同年 4 月の技術士試験合格・登録とともに正式に入会し、翌年より幹事としてその活動に取り組んでいました。その後大島前代表が大学を勇退、札幌へ転居されるとのことから平成 27 年より代表幹事を託される事になりましたが、就任時は前代表の後をうまく担っていけるかどうか大いに不安に思う所が大きかったように思います。しかしながら発足当初に比べ年ごとに仲間が増え、その仲間たちに支えながらこれまでの活動を進めていくことができました。今回の会長賞受賞は私にとって光栄な事でありうれしく思うところですが、これも仲間たちの支えがあったることと感謝するとともに、これからも微力ながら会の発展に努めていきたいと思ひます。

最後に、この度の会長賞を推薦していただいた北海道本部関係皆様に厚くお礼申し上げます。



1. 略歴

技術士補登録 (H13)

道南技術士会事務局長 (H13 ～ H25)

技術士登録 建設部門 河川、砂防及び海岸・海洋 (H21 ～現在)

道南技術士委員会 幹事長 (H26 ～現在)

技術士登録 建設部門 道路 (H30 ～現在)

2. 会長表彰を受賞して

この度、日本技術士会会長表彰の授与に対し、ご推薦をいただきました北海道本部本部長をはじめ関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

日本技術士会とのご縁は平成 13 年の道南技術士会から始まります。私が一次試験に合格し、技術士補登録のため道南技術士会の先輩技術士に指導技術士の登録を依頼したのがきっかけでした。指導技術士から「技術士を補佐するのも技術士補の務め」ということで、会の活動に遠慮気味な私が事務局長を任せられました。23 年経った今、道南技術士委員会幹事長として活動の一翼を担わせていただいております。多くの人脈と様々な活動の場の中に今の自分がいます。先輩技術士たち、そして会の運営にご協力をいただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

地方委員会が抱える問題点として、技術士の高齢化や人数の少なさがあります。道南技術士委員会は、本部と共に長い間取り組んできた技術士資格取得への奨励活動で、多くの技術士が誕生しています。さらに、技術士合格を目指している技術者も多くおります。今では CPD 研修会や技術交流などの運営は、若い技術士が中心となりつつあります。技術士として更なる社会貢献に寄与するため、次の時代を担う技術士とともに日々研鑽していきたいと考えております。